



Title	広島方言話者のスタイル切換え
Author(s)	篠原, 玲子
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2004, 6, p. 64-86
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23242
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

広島方言話者のスタイル切換え

篠原 玲子

1. 調査の概要

1.1. インフォーマント情報

〔表1〕

	年齢 ^{*1}	職業	居住歴
SA	74	農業・元村会議員	0-: 広島県山県郡筒賀村
SC	76	無	0-: 広島県山県郡筒賀村
YA	23	フリーター	0-: 広島県広島市安佐南区
YC	25	会社員	0-: 広島県広島市
YF ^{*2}	30	大学院生	0-18: 山口県熊毛郡田布施町 18-: 京都市

*1 いずれも調査時(2003年4月上旬)の年齢。

*2 YFが女性である点で他地域とは条件が異なる。

1.2. 談話情報

〔表2〕

	話者	話者間の関係	収録時間	談話の展開
老-老 ^{*1}	SA-SC	近所	36分	談話の最初は話題が途切れることが多く、YFが話題提供している。途中からSW(SAの妻)が談話に参加し、SAとSCの談話が盛り上がった。
老-若 ^{*2}	SA-YA	祖父と孫	24分 ^{*3}	主としてSAがYAに語る。
老-調 ^{*4}	SA-YF	初対面	45分	YFが質問、SAが答える。
若-若	YA-YC	中・高校のクラブの仲間 ^{*5}	45分	ほぼ同量の発話
若-調	YA-YF	初対面	45分	YFが質問、YAが答える。

*1 [老-老]にはSAの妻のSWとYFが同席した。YFが談話に参加した部分は分析対象から外す。

*2 YAは[老-若]で丁寧体を用いる。[若-調]よりも[老-若]を改まった場面と捉えていると解釈でき、当該方言の資料は他地域の資料と異なる。

*3 他の場面より収録時間が短いことに注意が必要であろう。特にYAの発話量が少ない。

*4 [老-調]にはSCが同席した。SCが談話に参加した部分もあるが、SAの発話に影響を与えていないものと判断したため分析対象から外さなかった。

*5 YAがクラブの後輩、YCがクラブの先輩に当たるため、YAとYCの間の距離感は他地域とは異なるかもしれない。

2. 結果および考察

2.1. 自称詞

2.1.1. 結果

〔表3〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ワレワレ	-	1	-	-	-	-
オレ	-	-	-	1	-	-
ワシ系 ^{*1}	6	12	1	9	1	-

*1 接辞ラが付加されたワシラ・ワシラー、助詞ワと融合したワシヤーを含む。なお、ワシラ・ワシラーには、複数を指示していると解釈されるものと、話者一人を指示していると解釈されるものがある。〔1〕は後者の例である。

〔1〕

035SA: {ポーズ} わしらー 23 のときにやー んでやけ もー はー この家の 仕事を ほね 主んなつて やりよったけーのー。 23 の歳はー んー。 ねの あんたー 自身は どわ どーゆー方面 進みたー? [老-若]

- (1) SA・YA ともにワシ系の使用が中心である。
- (2) SA は《対調》では自称詞を 1 例しか用いなかった。
- (3) SA は《対若》でワレワレを 1 例用いているが、これは、孫である YA に教示する文脈で現れている。

〔2〕

037SA: (略)自分が 見つけて 自分で 経験して なるほど わしが 進む道は この道じゃの っちゅー なにから なにしたほーが ええと思うがねー。(舌打ち)まー まー われわれが ゆーた場合にかー 頑張りんさい ー口しか(YA: {笑}うん)いえんまいや。 よー 大きゅーなった。ほんだが(YA: あー{笑})あんたも{笑}ふんま[ほんま]。 [老-若]

- (4) YA は《対若》でワシ系に加え、オレを 1 例用いている。《対老》では自称詞は 1 例のみ、《対調》では 1 例も用いられなかった。

2.1.2. 解釈

- (a) SA・YA ともに、自称詞の形式が切換えの指標になっているとは言えない。
- (b) SA は《対老》《対若》vs.《対調》、YA は《対若》vs.《対老》《対調》という対立において、前者では自称詞を用い、後者では自称詞を用いないという切換えを行っている可能性がある。しかし、改まった場面で自称詞を避けるということに対し明確な理由が見当たらず、妥当性に欠ける。
- (c) SA の《対調》、YA の《対老》《対調》で自称詞が現れにくいことについては、談話の展開が関わっていると考えられる。まず、SA《対調》は農業や村の行政など一般的なことを話題にしているため、自分自身に言及する必要が少ない。また、YA《対老》は主に SA が YA に語る形であり、YA が自分のことについて話している部

分自体が少ない。YA《対調》はYFの質問に答えるという展開でありYAが自分のことについて話していることは明らかなので、自称詞を用いる必要がなかったと考えられる。

2.2. 対称詞

2.2.1. 結果

〔表4〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
アンタ	1	12 ^{*1}	-	-	-	-
姓+先輩 ^{*2}	-	-	-	12 ^{*3}	-	-

*1 このうち2例は、対称詞が間投詞的に用いられている。

〔3〕

107SA: (略) 筒賀村みたいな こーまー[こまい、小さい]村じゃー あんたー どーにもこーにも ならんよーななーねー(YA:あー) 合併せざるをえんよーな やば 国の やりかたがねー そーゆーに だんだんだんだん なって。(YA:うーんー)(ポーズ)んちゃが まー 合併も いろいろ 問題が 出るよー。 筒賀 加計 戸河内んで 人口が あんたー 1万人 足らんのもんちゃけーのー。 9千なんぼしかな おらんのもんちゃけー。(略) [老-若]

*2 YCはYAの中学校時代のクラブの先輩である。

*3 このうち9例は、自動車のなかで隣り合って会話しているときの発話である。向かい合っていないという状況によって、対称詞の使用が増加した可能性もある。

- (1) SAは《対老》《対若》でアンタを用い《対調》では対称詞を用いていない。
- (2) YAは《対若》で姓+先輩を用い《対老》《対調》では対称詞を用いていない。
- (3) YAは祖父であるSAの呼び方について、談話中に次のように言及している。なお、YAが述べた「おっきーとうさん」は、《対老》で一度も現れなかったことから言及称である可能性もある。

〔4〕

500YA: まー 遠いすねー。 やま 山 下らな いけんすからねー 登った 分。(ポーズ) けー うち じーちゃん じーちゃんて 呼ばんのんすよ。

501YC: 何って 呼ぶん?

502YA: おっきー とうさんて 呼ぶんすよ。(YC:(笑))レアいっしょー。 わしもねー けどねー これ みんあ そー そーなんじゃ 思ーとってー ちっちゃい 頃 ずっと。(YC:(咳))すごいっしょ。 いや とうさん方と かあさん方と じーちゃん ふたり おるじや ないすか。(YC:んー)で たぶん ま 迷わんよーにつて ゆー たぶん 親の 配慮か なんか なんすよ。(YC:(笑))けしん 親族一同 みんな おっきー とうさんて 呼んでますよ。 で おっきー とうさんと おっきー かあさん。(YC:(笑))んー ** ちっちゃい ころから ずっと そーやって 呼んできたけん なんか なんちゅーんすか 違和感が ないんすよね。 [若-若]

2.2.2. 解釈

- (a) SAは《対老》《対若》ではアンタ、《対調》では対称詞の不使用というカテゴリカルな切換えを行っている。
- (b) YAは《対若》では姓+先輩、《対老》《対調》では対称詞の不使用というカテゴリカルな切換えを行っている。
- (c) よって、SAは《対調》、YAは《対調》のみならず《対老》をも改まりの高い場面と位置付け、相手への言及を避けたと考えることができる。
- (d) 一方、§2.1.1と同様に、談話の展開が対称詞の使用・不使用に影響を与えている可能性も大きい。SAが《対若》で対称詞を多く用いたのは、YAに対して将来についての教示を与えたり(3例)、YAに関する思い出を話したりする(4例)部分である。それに対し、《対老》《対調》では、農業や村の行政など一般的なことについて話している部分が多く相手に言及する必要がなかったということが考えられる。
- (e) 同様にYAは《対若》で、YCに質問したり(6例)、YCの性格などについてなんらかのコメントを述べたりする(4例)部分で対称詞を多く用いている。一方、対称詞の見られなかった《対老》では主としてSAがYAに語り、《対調》ではYFの質問に答えるという形であるので、やはり相手に言及する必要がなかった可能性がある。

2.3. 原因・理由の接続助詞

2.3.1. 結果

〔表5〕

下段は(普通体+接続助詞/丁寧体+接続助詞)とする

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ノデ	-	2 (2/0)	5 (3/2)	-	-	-
ンデ	-	5 (5/0)	32 (21/11)	-	-	2 (2/0)
カラ ^{*1}	-	-	2 (1/1)	4 (0/4)	1 (0/1)	5 (0/5)
ケー ^{*2}	59 (59/0)	32 (32/0)	15 (15/0)	19 (17/2)	4 (4/0)	25 (25/0)

*1 原因・理由の意味をもたない、継起的な文脈に付随的に現れるテ形接続の助詞カラ(例:行ってから・見てから・行かんでから・ほんでから[それで+から])は除外した。藤原(1988)を参照。

*2 ケン・ケを含む。ケンとケの違いは聞き分けられないが、使い分けがある可能性もある。

- (1) SAは《対老》《対若》で、YAはすべての場面で主にケーを用いている。
- (2) SAは《対老》ではケーのみ、《対若》でもケーが圧倒的に多いが、《対調》ではノデ・ンデの使用が多くなりケーを上回っている。カラは、《対調》で2例用いられた。

- (3) SA《対調》のノデ・ンデ・カラのうち、ほぼ半数が丁寧体に接続している。ケーはすべての場面で全例が普通体に接続した。なお《対老》《対若》では丁寧体に接続する例は現れなかった。
- (4) SA が《対若》で用いたノデ・ンデは比較的改まった話題で現れていると言える。具体的には、YA の将来について教示するとき、村の行政について話すときである。
- (5) YA はカラも全場面で用いている。ンデの使用は《対調》でのみ見られる。
- (6) YA が用いたカラは、すべて丁寧体に接続している。一方、ンデとケーは《対若》での2例を除いて普通体に接続した。

2.3.2. 解釈

- (a) SA のケーの使用率は《対老》(55.0%) > 《対若》(29.4%) > 《対調》(15.6%)、逆にノデ・ンデは《対調》(84.1%) > 《対若》(15.9%) > 《対老》(0%)となっており、連続的な切換えを行なっていると言える。
- (b) 《対調》でノデ・ンデの数がケーを大きく上回っていることと(4)より、SAはケーよりもノデ・ンデを改まった形式と認識していると考えられる。
- (c) YA もンデを《対調》でのみ用いていることから、ンデを改まった形式と認識していると考えられる。ンデが丁寧体と共起しない理由については、ンデ自体が丁寧さを含む形式として捉えられているということが考えられる。
- (d) (6)より、YAは丁寧体を用いた場合は標準語形であるカラを選択し、普通体を用いた場合は方言形のケーを選択するという解釈が可能である。しかし、原因・理由の意味を持っているかどうか、中途終了発話であるかなど他の要因も関わっていると考えられ、さらに詳細な分析が必要である。

2.4. 原因・理由の接続詞

2.4.1. 結果

〔表6〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ダカラ	-	-	1	1	-	-
ダケ ^{*1}	5	14	10	-	-	-
ジャケ ^{*2}	-	-	3	9 ^{*3}	-	-
ダケ	-	-	1	1	-	-
ヤケ	-	-	-	2	-	-

*1 ダケー・ンダケ・ンダケー・ホンダケ・ホンダケーを含む。

*2 ジャケー・ジャケン・ホンジャケを含む。

*3 ジャキ (1例) を含む。

- (1) SA は 3 場面を通して主にダケを用いているが、《対調》でのみ、ジャケ・ダカラ・ダケが現れる。
- (2) YA で当該項目が見られたのは《対若》だけである。ジャケを主に使い、ダカラ・ダケ・ヤケが 1 例ずつ現れた。
- (3) SA は指示詞が前接した形式（ホンダケ・ンダケなど）を用いている（16/34 例）が、YA は用いなかった。

2.4.2. 解釈

- (a) SA はジャケ・ダカラ・ダケをダケよりも丁寧な形式と認識し、《対老》《対若》と《対調》の間でカテゴリカルな切換えを行なっている可能性がある。しかし、ダケ・ジャケ・ダケの 3 種の音の違いは、はっきりと聞き分けられないものもある。話者も意識していない異音である可能性も高く、分類して分析するべきではないかもしれない。
- (b) SA にとって、ダカラは《対調》のみで用いる改まった形式である可能性がある。
- (c) (3) より、指示詞が前接しない形式は前接する形式に比べ、新しい形式であると予想できる。SA の用いる方言形の接続詞は、指示詞を前接させないで用いるという文法化の途上であると考えられる。SA が用いたダカラは、すでに文法化が完了し指示詞が脱落したものを標準語から取り入れたものだと考えられる。
- (d) YA が《対老》《対調》で原因・理由の接続詞を用いなかった理由については、特にこれらの場面では YA の 1 発話が短く、2 つ以上の文をつなぐ必要があまりなかったということが考えられる。

2.5. 逆接の接続助詞

2.5.1. 結果

〔表 7〕

下段は（普通体+接続助詞/丁寧体+接続助詞）とする

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ガ ^{*1}	25 (25/0)	20 (20/0)	38 (10/28)	-	-	1 (0/1)
ケド	-	1 (1/0)	-	31 (14/17)	6 (4/2)	61 (26/35)

*1 SA では、標準語では用いない「常体+ガ」の形が可能である。当該方言の逆接の接続助詞ガは標準語のようにデス・マスとは連動していないと考えられる。

〔5〕

028SA: 覚えるのも ぜに 特に まいんか どーかなー 今の 介護関係 福祉関係ーも けっこー
今から 将来的にやー わしゃー ええ ひとつの 職業だ 思うがねー。(略) [老-若]

- (1) SA は《対若》でのケド 1 例以外は、ガのみを用いている。

[6]

089SA:(略)ん 70 75歳 5歳になるけど 満(YA:あー){スーと息を吸う音}いーせんとかゆー かわり
や**か**か [老-若]

(2) YAは《対調》でのガ1例以外は、ケドのみを用いている。

[7]

205YF:よく 小学生のあいだ 中学生のあいだなんかは よく来てたー んですか?

→206YA:いやまー ちっちゃいころ[頃は] まー よー ちよちよく行っただが(YF:んー) 親戚一同
(YF:あー 集まります) 集まるか** [若-調]

(3) YAのケドは言いさし表現が多く、全98例中81例にのぼる。言いさし表現になっている割合はそれぞれ《対若》で83.9%(26/31例)、《対老》で100%(6/6例)、《対調》で80.3%(49/61例)であり、場面による大きな差は見られない。

[8]

449YC:なんでー こないだ 行っただって ゆーのは 家族で 行ったん。

450YA:あー 家族で 行きましたね。(YC:あー)んー。

451YC:あー ほんま あ ちゃんと そーゆー ことに 参加するんじゃ ===[YAの名]は。

→452YA:はい? あー いちおー いちおーすけどねー。 まー 予定が 合えばですけど。(YC:あ
ー) あー まー たいがい 合わすけどね。 [若-若]

2.5.2. 解釈

- (a) SA・YAともに、逆接の接続助詞が切換えの指標となっているとは言えない。
(b) (3)より、YAが多用したケドの言いさし表現は、丁寧さや改まりの度合いとは関わっていないと考えられる。

2.6. 逆接の接続詞

2.6.1. 結果

[表8]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
デモ	-	-	-	1	-	2
ダケド	-	-	-	1	-	-
ケド	-	-	-	12	-	1
ヤケド	-	-	-	3 ^{*1}	-	1
ジャケド	-	-	-	-	-	1
ンダガ ^{*2}	1	4	-	-	-	-
ンチャガ ^{*3}	1	1	-	-	-	-

*1 ホヤケド1例を含む。

*2 ウンダガ・ホンダガを含む。

*3 ンチャガを含む。

- (1) SA は方言形ンダガ・ンダガを《対老》《対若》で用いている。ただし、今回分析対象としなかった談話中の YF に対する発話でデモの使用が 1 例見られる。

[9]

010 SA:へーぜー[平生]は まー けっこー いろんな ことを 使いますがねえ。これが わしらの
うち この辺の 方言かいなー おもーて えー 意識して まー 話は せんかー。 でも ま
ー 最近は 方言ゆーても この辺の 方言が だんだん すたれて いきますねー。(略)

[老-老における YF に対する発話]

- (2) YA はジャケド・ヤケド・ケド・ダケド・デモの 5 種類の接続詞を用い、《対若》でケドが多くなっている。
- (3) SA は指示詞が前接した形式を用いているが、YA は用いなかった。

2.6.2. 解釈

- (a) (1) より、SA は《対老》《対若》では方言形ンダガ・ンダガを、《対調》では標準語形デモを用いるという切り換えを行なっている可能性がある。
- (b) YA は、ケドをぞんざいな形式と捉え《対調》での使用を避けるという切り換えを行っている可能性がある。
- (c) (3) より、§ 2.4.2 (c) と同様、指示詞が前接しない形式は前接する形式に比べ、新しい形式であると予想できる。SA の用いる方言形の接続詞は、指示詞を前接させないで用いるという文法化が進行していないと考えられる。(1)で挙げたデモは、すでに文法化が完了し指示詞が脱落したものを標準語から取り入れたものだと考えられる。

2.7. 動詞否定形式

2.7.1. 結果

[表 9*1]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ナイ	-	-	-	1	-	1
ネー	-	-	-	1	-	-
ン	35	23	27	41	7	30
ズ*2	1	5	1	1	-	-

*1 過去・非過去の区別なく集計。丁寧形式マセンは除く。また、動詞に可能の助動詞レル・ラレルが後接したもの、カモシレナイ・ツマラナイに当たる形式も含む。

[10]

452YA:あー。(ポーズ)普通の人 は 入れんのでしょ?

[老-若]

[11]

427SA:写真 撮られんけーねー。ありゃー。

[老-若]

広島方言話者のスタイル切換え

[12]

033YA: んー まー もしかしたら うちの じーちゃんが 出してくれるかも しれんし。 んー。(YC:う
そー)きわいすけどね。 [若-若]

*2 このうち SA《対若》の 3 例は過去形のダッタ・チャッタで文の終止の位置で用いられている。それ以外のズの使用は、標準語と同様に従属節内に限られる。

[13]

071SA: (笑)うん あんたー まー まめにやー あったいー けっこー 病気せだったのー あんまり。
[老-若]

[14]

107SA: (略) 県の なには そーゆーよーな 指示[を] 出しちよったんでゃが いい具合に 話が ま
とまらでやったけーねー。(略) [老-若]

(1) SA・YA とも方言形をほぼ専用している。

2.7.2. 解釈

(a) SA・YA ともに、動詞否定形式が切換えの指標となっているとはいえない。

2.8. アスペクト形式

2.8.1. 結果

[表 10^{*1}]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
テル・テイル	1	-	-	26	6	33
ヨル・トル・ チヨル・テオル	34 ^{*2} (30/3/1/0)	17 (8/7/2/0)	38 (12/21/0/5)	52 (18/32/2/0)	4 (1/2/1/0)	31 (18/8/5/0)

*1 過去・非過去、肯定・否定の区別なく集計。

*2 下段カッコ内の数値は、それぞれヨル・トル・チヨル・テオルの数の内訳を示す。
(ヨル/トル/チヨル/テオル)

(1) SA は方言形ヨル・トル・チヨル・テオルをほぼ専用している。標準語形テル・テイルが現れたのは次の 1 例のみで、方言語彙の標準語での意味を言い表す文脈で用いられている。

[15]

309SA: **** いぬる 帰る あ あんなー あのひと いーらく いらく 乾いている やり 続けて
やりさいわの やりさい (SC:んー)にがる いたむ やねこい しんどい くるしい はずる てこず
る じんご わずらわしい ごー ての なに これは です てのー [老-老]

(2) YA は方言形ヨル・トル・チヨルだけでなく標準語形テル・テイルも多く用いている。《対若》では、方言形の出現数が標準語形の出現数の 2 倍に及ぶが、《対老》《体調》では、標準語形が方言形を上回る。

YA について、肯定であるか否定であるかによって方言形と標準語形の分布に偏りが見られる。否定の場合には、すべて標準語形テル・テイルになっている。また、否定を表す形式もアスペクト形式に後接するときはずべてナイである。つまり、ヨ

ラン・トラン・チョランのような方言形はなく、すべてテナイ・テイナイである。

一方、肯定の場合には、すべての場面で方言形が標準語形を上回る。ただし、《対調》の方が《対若》よりも標準語形が占める割合が高い。《対老》では方言形しか用いられなかったが、用例数が少ないため言及できない。

〔表 11 YA のテル使用の内訳〕

肯定/否定		若 (YA)		
		対若	対老	対調
肯定	テル・テイル	19	-	20
	ヨル・トル・ チョル ^{*1}	52	4	31
否定	テル・テイル	7	6	13
	ヨル・トル・ チョル	-	-	-

*1 YA はテオルを用いていない。〔表 10〕参照。

2.8.2. 解釈

- (a) SA はどの場面でも方言形をほぼ専用しており、ヨル・トル・チョル・テオルとテル・テイルの区別は切換えの指標にはなっていない。
- (b) 方言形トル・チョルは、テ+オルが音声的に融合した形である。SA は《対調》でのみテオルを使用していることから、融合しない形式を丁寧な形式だと認識し、切換えている可能性がある。
- (c) YA について、否定では完全に標準語形が選択されており、ヨル・トル・チョル・テオルとテル・テイルの区別は切換えの指標にはなっていない。
- (d) YA は肯定では、《対若》よりも《対調》で標準語形を用いる割合が高くなっていることから、テル・テイルをヨル・トル・チョルよりも丁寧な形式だと認識し、切換えている可能性がある。
- (e) YA が《対老》でのみ標準語形を用いていないことについて、方言形しか用いない SA にアコモデーションしている可能性が考えられる。YA が用いたヨルの 1 例は、SA がヨルを用いた直後に現れている。

〔16〕

057SA: {ポーズ} 本人は どがいよるん[どう言っているのか] **み あんのか まだ

→058YA: この前 なんか 動物が 好きじゃけ 動物関係ー とかゆーのは いーよったけど [老-若]

しかし、この場面での YA の発話量・用例数が少ないため、明確に述べることはできない。

2.9. ガ格

2.9.1. 結果

〔表 12〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ガ	50 (89.3)	58 (93.5)	96 (88.1)	65 (79.3)	58 (100)	46 (82.1)
φ	6 (10.7)	4 (6.5)	13 (11.9)	17 (20.7)	-	10 (17.9)

- (1) SA では《対老》《対調》 > 《対若》の順で、φの出現割合が高い。
 (2) YA では《対若》 > 《対調》 > 《対老》の順で、φの出現割合が高い。
 (3) YA のφのうち、《対調》の6例は「～したことない」の形式である。「～したことがない」は現れなかった。この環境ではガが脱落しやすいかもしれない。

〔17〕

072YA: ありゃー 高いでしょー。(YF: 高いですか) あた* ありゃたぶんー んー 高いと思いますよ。

買ったことないけ わからんけど [若-調]

- (4) YA のφのうち、《対若》の3例、《対調》の1例は「とか」に後接するガがない例である。「とかガ」となった例は1例見られた。「とか」の後ろでは、ガが脱落しやすいと言えるかもしれない。

〔18〕

386YA: なんか 言っとったほうが いいんじゃないすか。 ** い 一発芸とか (YC: {笑}) 出したら
 スカウトとか 来るかもしれん。(YC: {笑})ん。 [若-若]

〔19〕

718YA: 絵は えぐいですけどね。 うん(YF: ***) 内臓とか 飛び出るけど。 [若-調]

〔20〕

476YA: ねー 看板 出とるっしょ。(YC: おー) やけ そーゆーのんも なんか じゃけー 学生とかが
 調べに 来たりすとか ゆってましたよ。 [若-若]

- (5) 上記 (3) (4) で示した2つの環境におけるφを除外した場合、YA の結果は次の表のようになり、φの出現割合について《対若》 > 《対調》である差がさらに大きくなる。

〔表 13 YA のガ格「とかガ」除外〕

	若 (YA)		
	対若	対老	対調
ガ	65 (82.3)	58 (100)	46 (93.9)
φ	14 (17.7)	-	3 (6.1)

2.9.2. 解釈

- (a) (1)の結果から、SAが切換えているとすれば、その対立は《対老》《対調》vs.《対若》という切換えになる。しかし、これまでの結果においてこのような対立で切換えられた形式は見られず、また、改まりの点で《対調》と《対老》が同レベルに捉えられているとは考えにくい。ため、切換えの対象とはなっていない可能性もある。
- (b) YAの場合、(2)で示した順序は、場面の改まりが低いほどφの出現割合が高いという順序になっていると考えられる。したがって、YAは、改まりの高い場面ではガを用い、改まりの低い場面ではガを省略するという連続的な切換えを行っている可能性がある。

2.10. ヲ格

2.10.1. 結果

〔表 14 *1〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ヲ	22 (64.7)	39 (81.3)	66 (81.5)	16 (23.2)	-	7 (19.4)
φ	12 (35.3)	9 (18.8)	15 (18.5)	53 (76.8)	2 (100)	29 (80.6)

*1「名詞+スル」は、目的語+スルであるか、サ変動詞であるかの判断ができないため除外した。

- (1) SAでは《対老》>《対若》《対調》の順で、φの出現割合が高い。
- (2) YAのφのうち、《対若》の8例、《対調》の3例は「とか」に後接するヲがない例である。「とかヲ」となる例は見られなかった。「とか」の後ろでは、ヲが脱落しやすいと言えるかもしれない。

〔21〕

029YA:どーします? なんか 弁当とか 買って きます? **で (YC:あー)ねー [若-若]

〔22〕

512YA:*ー しましたねー。よくー うーん 蛇とか 捕まえに 行ってきましたよ。 [若-調]

- (3) (2)で示した環境におけるφを除外した場合、YAの結果は次の表ようになる。しかし、YAについては〔表 14〕からも〔表 15〕からも、場面の違いによってφの出現割合が異なるとは言えないだろう。

〔表 15 YAのヲ格「とかヲ」除外〕

	若 (YA)		
	対若	対老	対調
ヲ	16 (26.2)	-	7 (21.2)
φ	45 (73.8)	2 (100)	26 (78.8)

2.10.2. 解釈

- (a) (1)の結果から、SAが切換えているとすれば、その対立は《対老》vs.《対若》《対調》という切換えになる。しかし、これまでの結果においてこのような対立で切換えられた形式は見られないため、切換えの対象とはなっていない可能性もある。
- (b) YAはヲ格を切換えの対象としているとは言えない。

2.11. デス・ダ類

2.11.1. 結果

〔表16 デス・ダ類^{*1} 接続助詞後接以外^{*2}〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
デス ^{*3}	1	-	53	50	10	69
ス	-	-	-	121	8	17
ダ	4	4	1	2	-	2
ヤ	6	6	-	5	1	1
ジャ	11	2	1	9	1	7
デヤ	-	-	-	-	-	-
φ ^{*4}	7	4	11	26	2	45

〔表17 デス・ダ類 接続助詞後接^{*5}〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
デス	-	-	23	3	2	13
ス	-	-	-	9	-	5
ダ	10	3	4	-	-	-
ヤ	-	-	-	1	-	3
ジャ	8	7	5	4	5	7
デヤ	19	14	3	-	-	-
φ ^{*6}	×	×	×	×	×	×

*1 集計には形容詞+デス/スの例、疑問詞デスカ/スカは含めていない(形容詞+ダ/ヤ/ジャ/デヤが非文となるため)。過去・非過去の区別なく集計した。この表では否定は除外した。〔表17〕についても同様。

*2 すべて文末。ヨ・ネなどの終助詞が後接するもの、疑問、あいづちを含む。

*3 デスが弱化したと考えられるエスも含む。〔表17〕についても同様。

*4 述部の名詞・名詞句・形容動詞の語幹で、デス・ダなどの指定辞が付加されていないものを集計した。

*5 文末・節末の区別なく集計した。後接した接続助詞は、ガ・ケド・ケーなど。

*6 *4に示した環境において、デス・ダなどの指定辞なしに接続助詞を後接させるのは非文であるが、〔表17〕との比較のため表に入れた。

- (1) デス・スを丁寧体、ダ・ヤ・ジャ・デヤを普通体、φを指定辞なしと呼ぶことにする。

- (2) SA について、《対調》では丁寧体のデス、《対老》《対若》では普通体が用いられる。普通体の語形のなかでは、より古形の方言形だと考えられるジャ・デヤが《対老》《対若》で比較的多く用いられている。なお、デヤは接続助詞が後接しない場合には現れない。
- (3) YA について、丁寧体と普通体の使用の割合を比較すると、《対若》と《対調》の間に大きな差が見られない。しかし、丁寧体のなかでは、《対若》ではデス<ス、《対調》ではデス>スという顕著な違いがある。普通体については、ジャが多く用いられているが、場面の違いによる大きな違いは見られない。なお、SA が用いたデヤの使用は、YA では見られなかった。
- (4) YA について、《対老》では接続助詞後接以外の環境における丁寧体の使用の割合が目立って多い。しかし、他の場面と比較して発話量が非常に少ないため、これ以上の言及は避ける。
- (5) SA・YA ともに、指定辞なしの割合は《対調》で多くなっている。この傾向は特に YA において顕著である。

2.11.2. 解釈

- (a) SA について、接続助詞後接以外の環境、すなわちここでは文末においては、《対調》では丁寧体を用い、《対老》《対若》では普通体を用いるというほぼカテゴリカルな切り換えを行っていると言える。接続助詞が後接する環境においては、《対調》でも普通体が用いられ切り換えは連続的になる。これは、文末では丁寧さを表示するのが義務的であるのに対し、接続助詞が後接する環境ではそれが選択的になるためだろう。さらに文が続く従属節末で丁寧体を使用すると、丁寧度が高すぎると意識されると考えられる。また、接続助詞を後接するものの、言いさして文を終わる場合は、それによって丁寧さの表示を回避している可能性がある。
- (b) SA が用いたデヤ (36 例) のうち、23 例にはケー、12 例にはガが後接し、分布の偏りが大きい。このことからデヤは、ケーやガが後接するときに現れるジャの異音で、意識的に切り換えられたものではないと考えられる。
- (c) YA について、丁寧体のなかでデスをスより丁寧な形式だと捉え、連続的な切り換えを行っていると言える。この傾向は、接続助詞が後接するか否かの環境の違いによっても変わらない。《対若》でも丁寧体、しかもスが用いられたのは、YC が YA の中学時代のクラブの先輩に当たるからであろう。YC が同輩であれば、《対若》と《対調》の間の切り換えは普通体と丁寧体の連続的な切り換えになる可能性が高い。
- (d) 結果 (5) より、指定辞を使用しないことは普通体ほどにはそんざいなものだと意識されていないと考えられる。また、SA・YA はともに、改まった場面で指定辞の使用を避けていると言えるかもしれない。

2.12. マス

2.12.1. 結果

〔表 18 マス^{*1} 接続助詞後接・テ形以外^{*2}〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
マス	-	4	10	54	2	46
φ ^{*3}	33	14	2	26	1	9

〔表 19 マス 接続助詞後接・テ形^{*4}〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
マス	-	-	24	5	-	4
φ	52	27	63	40	5	30

*1 過去・非過去の区別なく集計した。この表では否定は除外した。引用節内の語は除外した。〔表 19〕についても同様。

*2 すべて文末。ヨ・ネなどの終助詞が後接するもの、疑問、勧誘を含む。

*3 動詞・動詞型活用をする助動詞について、丁寧体をとり得るが丁寧形式が付加されていない語の出現数を集計した。ただし、丁寧体と普通体の対立が生じないと考えられる環境にある以下の場合、集計から除外した。

- 1) 推量形
- 2) 名詞・形式名詞が後続する場合
- 3) 標準語形ノダに相当する語が後続する場合

*4 文末・節末の区別なく集計した。後接した接続助詞は、ノデ・ケド・タラ・ケーなど。

(1) SA について、接続助詞後接・テ形以外の場合、《対調》の他《対若》でもマスをを用いている。《対若》でのマスは4例とも比較的改まった話題で用いられていることから、その使用には話題が関わっていると考えられる。特に〔26〕は「宮中での新嘗祭に米を持って行った」という話題である。マスの付かない語形をマスに付いた語形に言い直していることから、この話題にはマスがふさわしいと話者が捉えていると推測できる。

〔23〕

065SA: 特に あんたらーの いとこや なんかが えっと おるんでやけーのー。(YA:うん)いとこ同士の
付き合いゆことも やっぱり ときにやー でおーて 話したり(YA:うん) 交流するよーな 人に
なってもらいたいと 思いますよ。 [老-若]

〔24〕

111SA: (略) 各課ごとに 課長が おるが んーも[これも] まー 1人で 済むよーんならーねー。 ん
でやけー どっちみちーに 人員削減ゆーこたー どっちみち やりますよ。(舌打ち)まー 合併
ちゆーなー ありが 狙いなんで んでやけー きびしゆー なりますよ。(略) [老-若]

〔25〕

459SA: ゆーこと(新嘗祭での献穀)を やらしていただいた、いただきました。 めった めったないこ
といや こーゆーことは 県で 一箇所じゃけーねー。 [老-若]

- (2) SA について、接続助詞後接・テ形の場合、マスの使用は《対調》に限られる。

[26]

173 SA: (略) よなことで やっぱり それぞれ その家 その家の 考え方に やり方によって まー いろいろ (YF: えー) 変わりますんで 準備も その家なりの ひとつ したくを (YF: はい) すると
ゆー かっこーで まー いきま (略) [老一調]

- (3) YA について、接続助詞後接・テ形以外の場合、全場面でマスを用いているが《対若》に比較し《対調》での使用の割合が顕著に高い。

- (4) 接続助詞後接・テ形の場合は《対若》《対調》でマスが用いられるが、その使用は SA に比較すると少ない。《対老》でのマスの使用の例を挙げる。

[27]

004SA: コーヒー 飲んだんかいのー。

→005YA: あー お茶 もらいました。

[老一若]

2.12.2. 解釈

- (a) [表 18] と [表 19] を比較すると SA・YA ともに前者でマスの使用が多く、後者では少ない。このことから、当該方言においてはマスの使用による丁寧さの表示は、接続助詞後接・テ形以外の環境、すなわちここでは文末で典型的に現れると考えられる。従属節末でマスを使用すると丁寧度が高すぎ、今回のような場面にはなじまないのではないか。
- (b) しかし、[表 19] の結果は文末・節末の区別なく集計したものであるので、接続助詞やテ形での言いさしの例などが含まれる。(a) の主張のためにはさらに分析が必要であろう。
- (c) SA について、《対老》《対若》ではマスの不使用、《対調》ではマスの使用と不使用の混用という連続的な切換えを行っていると言える。ただし、結果 (1) で述べたように、話題の改まりによってマスの使用が選択される場合もあると考えられる。
- (d) YA について、《対調》でマスの使用が多く《対若》ではマスの使用が少ないという連続的な切換えを行っていると言える。《対若》でマスの使用を選択するのは、YC が YA の中学時代のクラブの先輩であるからであろう。現在では親しい友人同士とも言える関係にあるようだが、少なくとも言葉のうえでは、先輩・後輩の関係を保持していることが分かる。また《対老》でマスを使用することについては、SA と YA との親疎関係が関係するだろう。談話中にも「YA が幼い頃はよく SA 宅を訪れていたが、大きくなってからはあまり機会がない」という話題があり、日常的にそれほど親しくしているわけではないことが窺える。この点が《対老》でのマスの使用につながっていると考えられる。

3. まとめ

- (a) 今回取り上げた項目の切換えの有無と位置をまとめると次のようになる。なお、表中の直線はカテゴリカルな切換え、波線は連続的な切換えがあること、また点線は切換えの可能性を示す。また、×は切換えが見られないこと、－は YA 《対老》の用例数が少ないため判断できないことを示す。

〔表 19 切換えの有無と位置〕

項目	SA			YA		
2.1. 自称詞	対老	対若	対調	対若	対調	対老
2.2. 対称詞	対老	対若	対調	対若	対調	対老
2.3. 原因・理由接続助詞	対老	対若	対調	×		
2.4. 原因・理由接続詞	対老	対若	対調	×		
2.5. 逆接の接続助詞	×			×		
2.6. 逆接の接続詞	対老	対若	対調	対若	対調	－
2.7. 動詞否定形式	×			×		
2.8. アスペクト	対老	対若	対調	対若	対調	－
2.9. ガ格	対老	対調	対若	対若	対調	対老
2.10. ヲ格	対老	対若	対調	×		
2.11. デス・ダ類	対老	対若	対調	対若	対調	－
2.12. マス	対老	対若	対調	対若	対調	－

- (b) SA については、対称詞、逆接の接続詞、デス・ダ類の 3 つの項目で、比較的是っきりとしたカテゴリカルな切換えが見られた。また、原因理由の接続助詞、マスの 2 つの項目で連続的な切換えが見られた。これらの項目での切換え方は「SC・YA 対 YF」「SC→YA→YF」となっている。よって SA は「改まり」「親疎関係」「方言話者であるか否か」を基準として切換えている可能性が考えられる。
- (c) YA については、対称詞において比較的是っきりとしたカテゴリカルな切換えが見られた。また、ガ格において連続的な切換えが見られた。これらの項目での切換え方は「YC 対 YF・SA」「YC→YF→SA」である。このことから、YA は少なくとも「親疎関係」を切換えの基準とはしていないことが観察できる。YA が切換えの基準としているものとしては「改まり」のほか「年齢」が考えられる。
- (d) SA に比較して、YA は切換えを行っている項目が少なく、また、カテゴリカルな切換えよりも連続的な切換えが多い。SA と YA はともに外住歴がなく、SA よりも YA のほうが都市部に居住している。しかし、SA は元村会議員であるなど社会経験が豊富であると考えられる。一方、YA は現在フリーターであり、社会との接触が比較的少ない可能性がある。このようなインフォーマントの属性やパーソナリティなども、標準語使用能力の高さやスタイル切換えの有無に大きく関わっていると考えられる。

- (e) YA について、初対面の YF ではなく祖父である SA を改まりの度合いのもっとも高い相手と捉えていると解釈でき、他地域の結果とは様相が異なる。§2.12.でも述べたように、YA は成長に従って SA との関係が疎遠になったことが談話から分かる。そのような関係の変化によって、丁寧体を用いるようになったなど言語形式にも変化が生じたとすれば、今回の調査地での状況は現代的な祖父母と孫の関係を反映したものだと言えるだろう。

4. 展望

- (a) 今回の分析は、各項目が場面によって切り換えられるか、またそれはどのような基準によっているか、という点にとどまっている。各項目間関係を整理し、どのような項目が切り換えにあずかっているのかという一般化を行う必要があるだろう。
- (b) SA の発話はひとつのターンがかなり長く、相手に語るという形式になっている部分が多い。一方、YA の発話はひとつのターンが短く、話者交代がテンポよく繰り返される。このような談話の構造の違いが、現れる形式に影響を与えている可能性がある。

【参考文献】

- 阿部貴人・坂口直樹 (2002) 「津軽方言話者のスタイル切り換え」『阪大社会言語学研究ノート』4 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
- 高木千恵 (2002) 「高知県幡多方言話者のスタイル切り換え」『阪大社会言語学研究ノート』4 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
- 辻加代子 (2003) 「京都市方言話者のスタイル切り換え」『阪大社会言語学研究ノート』5 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
- 藤原与一 (1988) 『瀬戸内海方言辞典』東京堂出版
- 船木礼子 (2003) 「鹿児島方言話者のスタイル切り換え」『阪大社会言語学研究ノート』5 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
- 松丸真大 (2003) 「原因・理由を表す接続助詞の切り換え」『阪大社会言語学研究ノート』5 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
- 松丸真大・辻加代子 (2002) 「東京下町方言話者のスタイル切り換え」『阪大社会言語学研究ノート』4 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室

しのはら れいこ (大阪大学大学院生)

r_shino@leto.conet.ne.jp

〔老-老〕

収録日時：2003年4月13日
 収録場所：SA宅
 話題：人間関係の変化 → 温泉 → 盆踊り →
 過疎化 → 方言 → 公共工事 → 田楽
 → 田植え → 田楽 → 田植えの変化

- 711SA：梓植え それから なにかー
 712SC：なびきー なったいやー
 713SA：筋植えを やったんかー
 714SC：おー なびきいやー
 715SA：あれから 筋植えーなったんじゃなー
 ぼーやねー それから 機械植えーなっ
 てしもーた [音便] のいー
 716SC：うん そーそー
 717SA：でやけ いろいろ 農業も 変革が
 あるいのー
 718SC：時代 時代によって んー
 719SA：時代 時代ーのー ほんどー {短い
 ポーズ} 筋植えになって だいぶん 楽
 になったけーのー (SC：あー) あとー
 梓ー まくることが (SC：そーそー) な
 いーなっただけーねー へから あでなみ
 に やりよったけー (SC：おー) {笑い
 ながら} 梓植えやー あでなみに (SC：
 そー) いかんのでやけー
 720SC：おー しお しずな [し綱] ひーての
 ー
 721SA：おー そーあよー おーじょーしよっ
 たいやー
 722SC：こ そえで [それで] みな こがな
 った田ばっかりじゃけー
 723SA：おーー
 724SC：しんが 通らんのんじゃけー
 725SA：そーそー {短いポーズ} まー いーた
 [言ったら] しんゆーな あねー 今
 なに あの タコ田ゆーのが このご
 じゃのー (SC：{笑}) こがねーい たこ
 ーみたいな あんな 田が いったしお
 ーてのー
 726SC：いたしー いたしー
 727SA：しんが (SC：んー) 2 へん 入れとー
 [入れたく] なるんじゃけのー (SC：ん

ーんー) あれ しんは (SC：んー) おー
 じょーしよったよー あれっと ===
 [地名] の==== [人名か] が (SC：
 んー) あの頃にやー ゆk 太かったけ
 ーのー あのー (SC：んー) あれが 何
 べんぐらい 梓ー 変えよってきちやん
 が まー 結果 しんから (SC：おお
 {笑}) 梓ーの まー 何べんも か 変
 えよったけー

- 728SW：{ポーズ} 足跡が ちょーど あの 十
 の 十文字が (SA：んー) こー 踏んだ
 歩いとって*
 729SA：んー (SC：んー) そーそー
 730SW：よー い*られたんでのー (SC：んー)
 このわかー [梓は] だれが まくった
 んかいのーちゆって 話が出るんよの
 えーらいこと かど踏むよなやつあ ず
 っと かど行くんじゃね ありやー
 (SC：うんうん) で おまえあ かど行
 っとる えっといんさんな
 731SC：あれあ 前に向いて 植えていきよっ
 たんじゃけーねー ほじゃけー
 732SW：えー
 733SC：あとさり^りじゃなしに あれでも なび
 きでも
 734SW：で やって つろーてからねー [つら
 くてね、音便] 競争みたいに 植えるん
 じゃけーね ついて こー 植えるんじ
 やなくて
 735SC：んー はい そーそー
 736SA：あの頃はの 一番 なんだろのー 百
 姓も はなやかなかつつろーねー (SC：
 おー) まー 機械が 入りだしてから
 まー
 737SC：そーそー
 738SA：個人個人で やるよーに なってしも
 ーたんでやけーのー [音便] 機械ゆーこ
 とんで
 739SC：あれまであ **** 手間がいでや
 りよった
 740SA：あー あれまであ みな 手間がいよ
 のー し して わしらーも 今さっ
 きよりやー ===や [屋号] へは (SC：
 うん) よー てごー [を] しー [に] 行
 きよったけー (SC：うん)

〔老一若〕

収録日時：2003年4月13日
 収録場所：SA宅
 話題：進路 → 市町村合併 → 田植え → 家
 → 献穀

012SA: そぶ {ポーズ} はー そりゃ まー えー
 ー (YA: {鼻をすする音} んー) んー
 どーかね 忙しいんかいのー つねは

013YA: いや 最近 は もー あれ*すね の
 んびりっすよ

014SA: どーかいのー ありゃー 学校は ー
 応 済んだんだろーけー

015YA: んー ちょ 次は 就職ですからね
 ん

016SA: しゅ 就職 まだ 決まりゃーせん
 か? はっきりは

017YA: んー まー [まだ、とも聞こえる] 決
 まってないえすけど [ですけど]

018SA: {ポーズ} んー んー んーなん 大変い
 やのー だが 就職いくとだ

019YA: んー さっき お兄ちゃんが 公務員
 が いーんじじゃないかってから ==
 [人名] 兄ちゃん [スーと息を吸う音]

020SA: まー 一番ええのは 公務員関係じゃ
 ろーがのー しょうぼつあ [消防署へ]
 入れ 消防署へ {笑}

021YA: {笑} 消防署へ あー

022SA: {ポーズ} まー わしらーから 見た場
 合にゃー んでゃけ あーゆー ま 堅
 い ところゆーか んー ま 民間企業
 だったらねー い やっぱり アップダ
 ウンが (YA: あー) あるが 公務員関係
 とかゆーことになりゃ まー ばんがら
 に 給料がええ ゆーほどにゃーないが
 まー 一応 平均化された 安定 され
 た 職業なので (YA: んー) えー
 ま どっちかゆーと そーゆー方面へ
 えー すすんでくれりゃー ま この上
 なーことで っとゆーよーな まー 思
 いはするわね やっぱり わしらーの年
 代から ゆーた [音便] 場合にゃー (YA:
 んー) どっちかゆーと

023YA: 倒産とっ [とか] ないですからね

024SA: おー おんなしこと やっぱり 考え
 方 親としての 考え方 やっぱり あ
 ーゆー 考えを 持つ どっちかゆーた
 ー [ゆうたら] [音便] 安定 したよー
 な 職業へ 入っとかにゃ や この上
 ないと (YA: うん) ゆよな 思いもする
 {短いポーズ} 今 公務員ぐらいから*
 入れるんだろー

025YA: んー すねー

026SA: 資格があるし んー {短いポーズ} も
 ー あれか ひとつは なに あ の っ
 ぱい 手に 技術を

027YA: あー すねー んー

028SA: 覚えるのも ぜに 特に ま いんか
 どーかなー 今の 介護関係 福祉関係
 ーも けっこー 今から 将来的にゃー
 わしー ええ ひとつの 職業だ 思
 うがねー (YA: んー) でゃけ 介護関
 係の 資格を とるゆーのも ひとつの
 方法じゃーな一かのー [ないかのー] っ
 てみたり

029YA: うちの お父さんも なんか そんな
 こと (SA: うんー) ゆっとった**

030SA: んー ありゃ もー* ひとつの
 方法 だ と 思うがのー {ポーズ} ま ん
 だが 一応 学校出て*がと思ったけ
 安心は 安心だが (YA: んー) んー ま
 んーだが ねーで 子どもを育てるいや
 大変でー うんだが お父さんや お母
 さんは んーま [ほんま]

031YA: んー すよね んー

032SA: んー わしらー あんまり よー ん
 ーたが [あんたが] いつのまにやら 大
 きゆーなっただけー [音便] (YA: {笑})
 たった こないだの 気がするがの こ
 ー あー 畑 田植えを てごーしー
 [手伝いをしに] 来たり (YA: あー) し
 よったが あげんのー なんぼ なんぼ
 んなっただんか

033YA: 今 23 です 23 はーい 気づいたら

034SA: 23 かー あー はー

〔老一調〕

収録日時：2003年4月13日

収録場所：SA宅

話題：棚田 → 林業 → 農業 → 害獣

- 066SA：まー あの一 今の (YF：はい) 棚田百選に 選ばれてからは ま おかげで ま 非常に 今の ように (YF：はい) あの一 アマチュアの 写真屋さんや (YF：あー) ほいから あの一 絵画を 楽しむ 人や なんかがね あるいは まー やっぱり 棚田ゆーことで っばい 見に いっぺんは 行きたい ゆーよーな ま 気持ちが あるんでしようね けっこー 遠方の 方も 来られるしねー
- 067SC：写真コンテ コンテスト は 3回 やったんかいな
- 068SA：んー あれ 3回 やったんですよ
- 069YF：3回も
- 070SC：あー あえてー 優秀賞は この できた 棚田米の (YF：えー あー そーなんですか) さん 30キロ
- 071YF：30キロ 一ひと袋 ほー
- 072SA：んー
- 073YF：それは みんな がんばって とり* 写真
- 074SC：去年は しゃ 写真 少なかったけど 最初の 年は 200なんぼ あったで
- 075YF：そーなんですか はー
- 076SC：えー 写真が
- 077YF：やー あの こ ここの お宅の すぐ 裏 棚田ですな
- 078SA：はいはい
- 079YF：あの お仕事 農作業するときは もう 家の 裏から すぐ たんぼに 入って (SA：そーそーそーそー) とゆー 感じで いかれるんですか 今日 は ちよっと そのの ***て 感じで
- 080SA：もちろん もー すぐ (SC：{笑}) 家の 近くはねー
- 081YF：えー やー じゃ 遠くから 来られて あ そーだ 見に来られる 方ーな

どは も く お車で 来て

- 082SA：んー そーそー 自動車でねー
- 083YF：自動車で あ 小学校あたりに 停めたりして で ***なるんですか
- 084SA：そーですねー んー
- 085YF：棚田祭だとか そーいった お祭の ときも 小学校の あの グランド 中心に やってらっしゃるんですか？
- 086SA：そーですね だいたい グランドを 中心に ほんじゃけ いちおー (YF：はい) たんぼは あの かみに 二枚ほど いちおー この 棚田祭用として (YF：えー) かつとるんですがねー
- 087YF：あー そーなんですか
- 088SA：たんぼを 二枚ほど (YF：はい) んで まー その 作業が 済んだら いちおー 小学校の グランドへ (YF：えー) 集まっていたいて ま ひる食会食してから (YF：んー) ま 交流すると (YF：んー) ゆーよーな かつこうに したるんですがね
- 089SC：百人ぐらい 来ておられます
- 090YF：あ いつも 毎年
- 091SC：はーはー
- 092YF：あー 百人ぐらい
- 093SC：百人以上
- 094SA：けっこー あの 子どもの 連れてこられて (YF：えー) いわゆる 百姓の 体験を したりねー ま 田植えを したり (YF：あー はいはい) 稲刈りを したり ゆーよーな ことが おーいーですねー (YF：えー) けっこー 子どもさんも 喜んで あゆーよな こと されるし んー ま いまじゃ けっこー 棚田祭も 盛況に 行きよるんですが どーかなー 将来 このまんまで いっても どーも しょうがないかの一 思うてみたり
- 095YF：んー なかなか 若い 方 戻られないしー
- 096SA：そーえすのー[そうすね]
- 097YF：わたし自身の ことも 含めて なかなか んー 戻らない

〔若一若〕

収録日時：2003年4月12日
 収録場所：YCの自動車の中
 話題：コンビニ → 花見 → 年齢 → 調査 → 動物 → パソコン → スポーツ → 方言 → 選挙 → クマ → 家族 → 親戚 → 社員旅行 → 就職 → 彼女

228YA：あー そい [そういえば、のいいさしか] 今年 ボード 行きました？ いっぱい
 229YC：なにが？
 230YA：== [YCの名] 先輩
 231YC：いや 3回 4回かな
 232YA：今年は けっこー **で 行ったんすよ
 233YC：え うそ === [YAの名] 行ったん
 234YA：あー カンカン 行きましたよ
 235YC：直線番長の くせに
 236YA：{笑} そーそーそー カンカン 行ったりしましたよ
 237YC：あー ほんまー
 238YA：今シーズンは いわしたった
 239YC：はー
 240YA：んー
 241YC：うそー ちゃんと ターンとか できるよー なったー？
 242YA：もー やばいっすよ
 243YC：あ ほんま？
 244YA：もー そんな 次元の 話じゃないっすよ
 245YC：あ ほんま？ 飛んだった？
 246YA：飛んでま *** (YC:{笑}) あもー クルクルクルクル (YC:{笑}) {笑}
 247YC：{笑} 絶対 うそ
 248YA：{笑} いやいや
 249YC：ほーなんじゃ え 誰らと 行ったん？
 250YA：えーとえーと 彼女とかとすねー
 251YC：あー 彼女と ふたりとか？ (YA：んーんー) あ そーなんじゃ === [YA

の名] の 車で？
 252YA：はい
 253YC：はーあ
 254YA：で 父さんが 車 こーた [音便] んすよ 見ました？
 255YC：あん デリカ？
 256YA：あー デリカ デリカ
 257YC：んー
 258YA：あれ こーてから ブリ 楽しい なって
 259YC：{笑}
 260YA：やっぱ エフアールは いけんすよ ありえん {ポーズ} これ 四駆なんすか？
 261YC：これ？ (YA：んー) これ 四駆よ
 262YA：おーお さすが == [YCの名] 先輩
 263YC：*りゃ [それは] 四駆でしょう
 264YA：んー
 265YC：でも 雪の日 しべってからねー
 266YA：まじっすか
 267YC：んー
 268YA：四駆なのに？ (YC：おー) ノーマルで 行ったんすか？
 269YC：そーそーそ
 270YA：あーあー
 271YC：いや ふり 降り始めの 頃だったんよ まだ
 272YA：あーあー ちょっと 気を 気を 許していたんすか
 273YC：そーそーそーそーそーそーそ
 274YA：あー はいはいはい 隙を 見しちゃだめですよ 雪山に
 275YC：ほんまよ
 276YA：んー
 277YC：ほんま 痛い目 あったよ
 278YA：こわいこわい 雪は ほんま こわいよ
 279YC：あー
 280YA：まー 話は 変わるけど じゃー 毎週 土曜日は 休みに してるって ことですよ ね == [YCの名] 先輩も
 281YC：んー
 282YA：あー

〔若一調〕

収録日時：2003年4月12日
 収録場所：YCの自動車の中
 話題：吹奏楽 → 祖父の家 → 給食 → 吹奏楽
 → 広島名物 → スノーボード → インターネット → 映画

655YF：あ 映画も わりと お好きなんですか？
 656YA：んー 大好きですねー まー え しよっちゅー ビデオ借りて
 657YF：さっき 宮崎 [宮崎駿] に の 話が出てましたけど
 658YA：{笑} もー あ もー んー あ もー ジブリフリークですけどねー
 659YF：ジブリフリークですか
 660YA：あー
 661YF：あの そーじゃ じゃ うかがいたいで* ギブリーズって どんな風なんですか
 662YA：なんか まー ん 個人的にや [には] ん {吹き出して} ん どーか思います
 663YF：{笑}どーかって
 664YA：あの マニアックなやつしよー？ マニアックなやつしよー？ なんか
 665YF：いや わたし 見てないから 知らないんですけど ご覧になりました？
 666YA：んー いや なんか 見てないけど なんか (YF：んー) なんか 面白くなさそーな
 667YF：マニアックなんですか あれは
 668YA：んー なんかねー
 669YF：なんか 変な 眼鏡をかけた おじさん風な のの (YA：あーんー) イラストだけ 見たんですけど
 670YA：もー んー いー あ 夢も 希望もないっちゅーわけじゃないけど んー
 671YF：はー
 672YA：んー 夢がない
 673YF：夢がない
 674YA：んー 気がする よーじゃけど
 675YF：はー じゃ わりとー 宮崎ー まジブリフリークとしては(YA：うん) 夢

のある 内容の 作品のほーが 好きなんですか？

676YA：うーんー
 677YF：さっきも ラビユタとか いってましたけど
 678YA：んー ほーえすねー [そうですね] んー
 679YF：思いでぼろぼろ おも っとか そーゆーのは あんまり
 680YA：あれあ ちよっと うーん
 681YF：楽しくないほー
 682YA：ちよっと うーん
 683YF：{笑} ちよっ ちゅー あっちー よせ
 684YA：うーん ちよっと
 685YF：いちおしは どれですか
 686YA：うーん も どれも いーけど や どれも 捨てがたい
 687YF：捨てがたい
 688YA：うーん うん
 689YF：それぞれ どこがいーって ゆっていくとしたら？
 690YA：んーーー どこがいー
 691YF：ナウシカは どこ なに どーゆーとこが？
 692YA：どっかがいーちゅーじゃないんですけどねー あー ま ナウシカ まー マニーすからね***** [早口で不明瞭な発話で聞き取れない]
 693YF：あー あーいーです それがいーですけど はー
 694YA：あんまり はー あれ なんか 奥が深いらしーつすよ なんか いー回 なんか原作の なんか アニメみたいな ん 読んだけど
 695YF：あー あ 読まれました？
 696YA：うーん
 697YF：あれ けっこー 読みにくくないです？
 698YA：んー なんか マニアックなついでい
 699YF：マニアック
 700YA：うん